

宇佐山古墳群(大津市神宮町)発掘調査

現地説明会資料 平成 22 年(2010)10 月 16 日(土)

調査主体 滋賀県教育委員会

調査機関 財団法人滋賀県文化財保護協会

1. 調査の経緯

滋賀県教育委員会と財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県大津土木事務所からの依頼により柳川支流通常砂防事業に伴う宇佐山（うさやま）古墳群（大津市神宮町）の発掘調査を実施しています。

宇佐山古墳群は、宇佐山の東斜面に古墳時代後期（6世紀）の円墳などが 12 基周知されている遺跡です。今回、古墳群の範囲内で砂防工事が計画されたため、平成 21 年 5 ~ 8 月に試掘調査を実施しました。

その結果、工事対象範囲に 4 基の古墳が存在するとみられたほか、弥生土器、古墳時代から奈良時代の須恵器・土師器、奈良時代の土馬などが出土し、古墳のほかに集落跡や祭祀跡などが存在すると推測されました。

このことから、遺構や遺物が存在するとみられる 3,500 m²を対象に平成 22 年 4 月から発掘調査を行っています。

2. これまでの発掘調査の状況

宇佐山古墳群ではこれまでの発掘調査で縄文時代から平安時代にかけての遺構や遺物が出土しています。6 月には箱式石棺を内部主体に備え、被葬者の頭骨が遺存していた古墳時代中期前半の古墳が見つかりました。特に、石棺内は赤色の顔料（朱もしくはベンガラ）が「魔よけ」のために塗られ、頭骨も真っ赤でした。

その後の調査によって、弥生時代中期末の竪穴住居、弥生時代末～古墳時代初頭の周溝墓 3 基、奈良時代の土馬やカマド形土器など祭祀に使われた遺物、平安時代中期の蔵骨器などが出土しました。

3. 弥生時代後期～古墳時代初頭の墳墓について

8号周溝墓

【概要】墳丘が遺存しており、発掘調査前から存在が知られていた墳墓です。

【立地】宇佐山東斜面の琵琶湖を臨む標高 149 ~ 152m の山腹に造営されています。

【墳丘】平面形が長方形を呈し、南北 13m（周溝を含めて 17m）東西 9 m（周溝を含めて 12m）高さ 3 m（南側墳裾から墳頂まで）の規模です。

【周溝】幅 2 ~ 3 m の周溝が、墳丘の北・南・西側にめぐります。深さは西側の深い部分で 1.3m あります。

【埋葬部】墓坑に木棺を直接納めています（木棺直葬）。墓坑の規模は南北4m以上、東西約2m、木棺は長さ2m以上、幅0.8m程度です。

【副葬品】現在調査中です。棺内から鉄製品（刀剣？）が出土しています。

【供献土器】墳丘に供えられた土器が周溝内に落ち込んだ状態で出土しています。

【年代】周溝出土土器から弥生時代末と考えられます。

9号周溝墓

【概要】8号周溝墓の南西30mに位置しており、周溝の一部が検出されました。

【立地】標高153～154mの山腹に位置しています。

【墳丘】墳丘盛土は流出しており遺存しません。

【周溝】幅2m、深さ0.3～1mの周溝が、不整円形にめぐります。

【埋葬部】不明。

【副葬品】不明

【供献土器】墳丘に供えられた土器が周溝内に落ち込んだ状態で出土しています。

【年代】周溝出土土器から弥生時代末と考えられます。

10号周溝墓

【概要】8号周溝墓の南東に接して位置しています。周溝の一部が検出されました。

【立地】標高147～149.5mの山腹に位置しています。

【墳丘】調査区南側の山林に墳丘とみられる約1mの高まりがあります。周溝の形状・規模から一辺10mほどの方形墳墓と考えられます。

【周溝】幅4～7m、深さ1mの周溝がめぐります。周溝の一部が8号周溝墓の周溝と接しています。切り合いは認められません。

【埋葬部】不明。

【副葬品】不明

【供献土器】墳丘に供えられた土器が周溝内に落ち込んだ状態で出土しています。

【年代】周溝出土土器から弥生時代末～古墳時代初頭と考えられます。

8～10号周溝墓発見の意義

宇佐山付近から坂本にかけての山腹や山麓部には、1000基ほどの古墳時代後期（6世紀～7世紀前半）の群集墳が存在します。8～10号周溝墓についても、調査を始めるまでは、後期古墳であろうと推測していましたが、調査を進めたところ、弥生時代末から古墳時代初めにかけての墳（2世紀末～3世紀前半）に造営された周溝墓であることが明らかとなりました。

8～10号周溝墓の被葬者の集落は宇佐山の麓にあったと思われます。集落を見下ろす場所に墳墓が築造されたのでしょうか。

弥生時代の近畿地方では方形周溝墓と呼ばれる四角く周溝をめぐらせた低墳丘墓が多く築造されました。宇佐山の麓の錦織地区においても弥生時代中期から古墳時代初頭の方形周溝墓が数基見つかっています。宇佐山8～10号周溝墓と錦織地区検出周溝墓の墳丘規模を比較すると、前者が一辺10～13m、後者が7m前後であり、宇佐山8～10号周溝墓が錦織周溝墓を凌駕していることがわかります。宇佐山に墓域を定めた被葬者は麓の錦織周溝墓の被葬者とくらべてランクが上位であったとみられます。

滋賀県内の平野部では数百基もの周溝墓が見つかっていますが、山地に立地する弥生墳墓の発見例は多くありません。今回の発掘調査では、弥生時代末期の湖南地域において、山地にも墳墓を造営していたことが明らかになりました。

なお、宇佐山8～10号墓の築造から100年ほど後の古墳時代前期には、宇佐山から谷をはさんだ南の丘陵上に、それまでの弥生周溝墓とは隔絶した全長60mの規模をもつ県下最古級の古墳である皇子山1号前方後方墳（4世紀）が造営されます。

4. 奈良時代の祭祀遺物について

調査地の北側から土馬やカマド形土器、土師器（はじき＝赤焼き軟質の土器）の甕・小皿などの祭祀に用いられた物品が出土しました。年代は8世紀後半頃と考えられます。

これらは、柳川支流の肩口付近の東西4m、南北5mの範囲から放棄された状態で出土しており、奈良時代にこの場所で祭祀が行われたとみられます。土師器の甕のほかは、細かく割れて散乱した状態で出土しており、祭祀を行った際に意図的に壊されたと考えられます。

土馬の破片は約50点出土しています。頭部が6点あることから6体分以上あることがわかります。土馬は溝や河川などから出土することが多く、雨乞いや長雨止雨、また、疫病神封じなどの祭祀に使用された道具と考えられています。

今回出土した土馬は、体長15cm程度で、三日月形の頭をもち、鞍の表現がない裸馬の形態です。このような特徴をもつ土馬はおもに平城京や長岡京、平安京などの都で用いられたものです。平安時代には湖岸の唐崎が平安宮の祓所（はらえど）の一つになっており、祓行事が行われていました。地理的に近い当地においても奈良時代に国家が関与した祭祀が行われたと考えられます。



図 1 発掘調査地位置図 ($S=1/5,000$)



図 2 遺構分布図



宇佐山古墳群 遠景(東から)



8号周溝墓(北西から)



8号周溝墓 埋葬部(南から)



10号周溝墓(東から)



9号周溝墓(東から)



9号周溝墓 供献土器出土状況(北から)



土馬出土狀況



土馬